

21. 日本人一般集団における豆腐の摂取と長期間の脳卒中死亡リスク

研究協力者	Ho N. Nguyen	(滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 大学院生)
研究協力者	宮川 尚子	(滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 客員助教)
研究代表者	三浦 克之	(滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 教授)
研究分担者	奥田奈賀子	(人間総合科学大学人間科学部健康栄養学科 教授)
研究分担者	由田 克士	(大阪市立大学大学院生活科学研究科食・健康科学講座公衆栄養学 教授)
研究協力者	荒井 裕介	(千葉県立保健医療大学健康科学部栄養学科 准教授)
研究分担者	中川 秀昭	(金沢医科大学総合医学研究所 嘱託教授)
研究分担者	坂田 清美	(岩手医科大学医学部衛生学公衆衛生学講座 教授)
研究分担者	尾島 俊之	(浜松医科大学医学部健康社会医学講座 教授)
研究分担者	門田 文	(滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任准教授)
研究分担者	高嶋 直敬	(滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 助教)
研究分担者	藤吉 朗	(滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 准教授)
研究分担者	大久保 孝義	(帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座 教授)
研究協力者	Robert D. Abbott	(滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任教授)
研究分担者	岡村 智教	(慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 教授)
研究分担者	岡山 明	(生活習慣病予防研究センター 代表)
研究分担者	上島 弘嗣	(滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任教授)

【序論】

大豆および大豆製品を摂取することは健康に良いという報告は多いが、脳卒中との関連についての報告はほとんどない。そこで、本研究では、一般日本人集団を対象として、大豆製品の中でも最も摂取量の多い豆腐と24年間の脳卒中死亡リスクとの関連について検討した。

【方法】

1980年に実施された循環器疾患基礎調査と国民栄養調査の両方を受検した者のうち、脳卒中や心筋梗塞等の既往を有する者、ベースライン時のデータに欠損があった者などを除外した9,244人(男性4,046人、女性5,198人)を1980年から2004年まで24年間追跡した。食品や栄養素の摂取量の評価には、国民栄養調査の3日間の食事摂取データを用いた。Cox比例ハザードモデルを用いて、性、年齢、生活習慣、栄養素などの交絡因子を調整し、豆腐摂取量の4分位の脳卒中死亡の多変量調整ハザード比を性別に算出した。

【結果】

24年追跡期間中、417人の脳卒中死亡、88人の脳出血死亡、245人の脳梗塞死亡を認めた。豆腐の摂取は、全年齢の男性と、65歳以上の女性において、脳卒中リスクと関連を認めなかったが、65歳未満の女性では脳出血死亡と負の関連を示した。豆腐摂取量で4群に分けたときの最小摂取群に比べて最大摂取群では、脳出血の多変量調整死亡リスクは有意に低かった(ハザード比 0.26, 95% 信頼区間: 0.08-0.85)。

【結論】

日本人の一般集団を対象とした長期の大規模前向きコホート研究において、豆腐の摂取は65歳未満の女性を除いては脳卒中リスクと関連を示さなかった。若年女性にみられた豆腐の摂取と脳出血リスク低下の関連が、真かどうかの検証には更なる研究が待たれる。

Clin Nutr. 2016 (in press)